

KYOTO  
UNIVERSITY  
ANNUAL REPORT  
2025

KYOTO UNIVERSITY  
ANNUAL REPORT 2025



# KYOTO UNIVERSITY

## ANNUAL REPORT

アニュアルレポート2025

発行: 京都大学広報室(2025年9月発行)  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-7531(代表)  
kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
www.kyoto-u.ac.jp



京都大学アニュアルレポートはウェブサイトにてPDFでもご覧いただけます。  
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/annual-report>

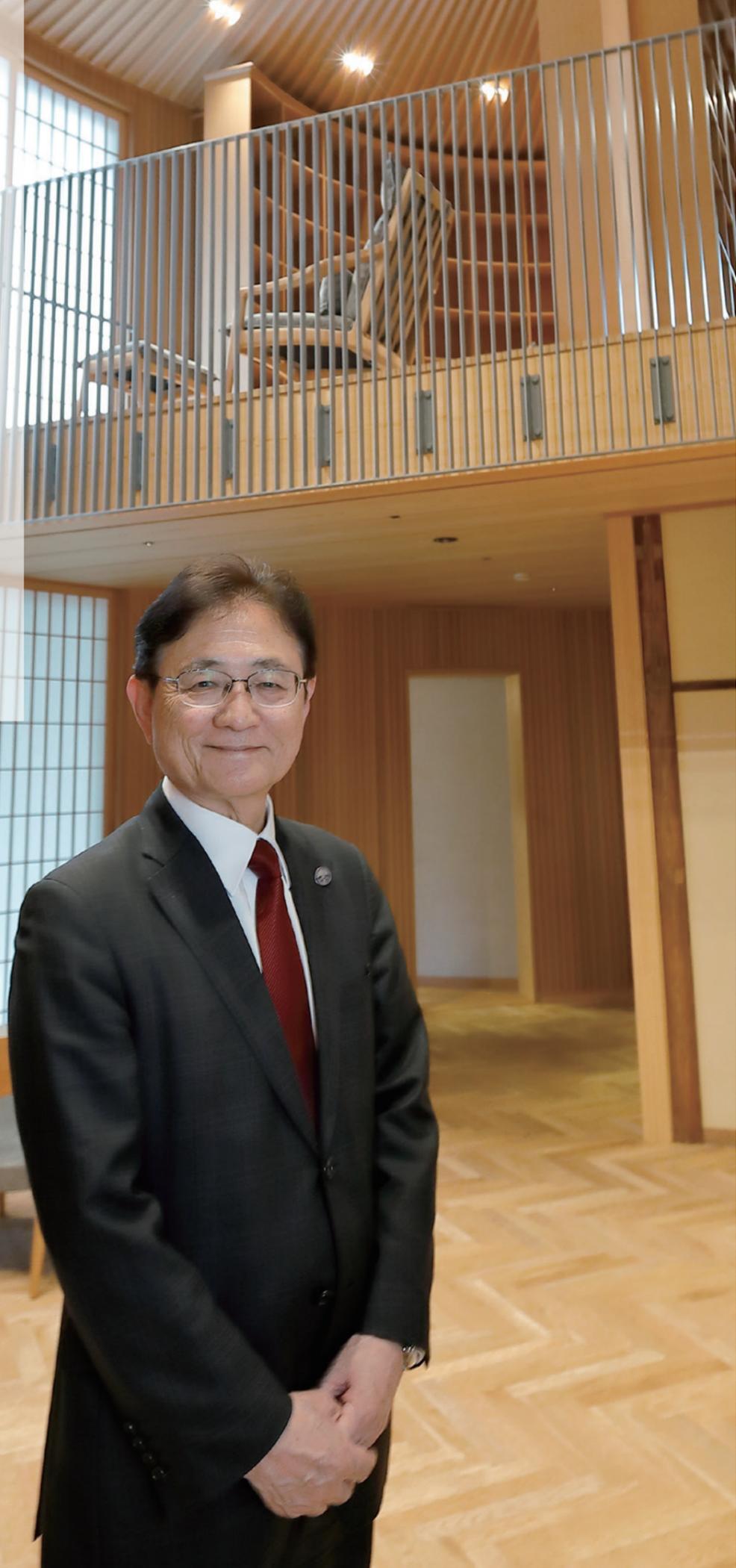
#### 表紙: 京都大学百周年時計台記念館

記念館の北側、ガラス張りの百周年記念ホール越しに望む時計塔。  
時計塔の北側面には、地上から25mの位置に銅鉄製の鐘がある。モーターでワイヤーを引っ張り、鉄のハンマーが鐘を打つ仕組みで、現在は8時、12時、18時と1日3回、時を告げる音色を響かせている。



## Contents

- 2 総長メッセージ
- 3 数字で見る京都大学
- 5 世界に輝く研究大学を目指して
- 7 ガバナンス
- 9 教育
- 11 研究
- 13 共創
- 15 DEIB
- 17 グローバル展開
- 18 医学部附属病院
- 19 課外活動
- 21 財務情報
- 25 同窓会・基金



京都大学下鴨休影荘(湯川秀樹博士旧宅)にて

## 総長メッセージ

～京都大学の原点に立ち返り、研究大学としてのあり方を問い直す～

## 「自由の学風」のもとに

大学の使命は、新しい知的価値の創生とそれを担っていく人材育成を通じて公共の利益に資することにあります。本学は、「地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを基本理念として、「自由の学風」のもと、125年余の教育と研究の歴史を刻んできました。

平成29年には文部科学大臣による指定国立大学法人の指定を受け、「自由で独創的な知の創造を支える柔軟な研究組織体制」、「次世代を担う若手研究者の育成と若い頭脳の国際循環」、「新しい人文・社会科学の創出と社会への積極的な発信」、「ボトムアップの議論に基づく実効的大学の運営と財政基盤の強化」の四つの大きな目標を掲げ、その具体化に向けてさまざまな施策を推進しています。

令和2年に第27代総長に就任した私は、真に足腰の強い研究大学を目指し、組織のインフラの強化と改革を進めるための具体的施策として、「任期中の基本方針―世界に輝く研究大学を目指して―」を公表しました。これを着実に実行していくことにより、本学の教育と研究の誇るべき伝統を未来に向けて確実に発展させていく覚悟を新たにしています。

## 京都の地で

「九重に 花ぞ匂へる 千年の 京に在りて」、京都大学学歌の冒頭の句です。

京都大学は、明治30(1897)年、「政治の中心から離れた京都の地に、自由で新鮮なそして本当に真理を探求し学問を研究する学府としての大学を作ろう」という機運の中で、歴史と伝統の地であるこの京都に創立されました。豊かな自然と文化芸術に恵まれた京都は、ベンチャー発祥の地でもあり、その研究成果で全国的・世界的に貢献する数多くの革新的企業が誕生し発展してきました。このアントレプレナーシップの伝統は今も強く息づいており、学生や研究者にとっても非常に貴重で重要なアドバンテージだと言えます。

私達は、この京都の地で地域の皆様と共にあり、地球社会の調和ある共存に向けて一層貢献してまいります。

## 最後に

この『京都大学アニュアルレポート2025』では、「任期中の基本方針」に沿った取組と実績を詳しく紹介し、また、大学運営の基盤となる財務情報も掲載しています。大学の理念や歴史、基本的な方針、注力している取組や、学生・研究者の活動等を幅広く紹介し、さまざまな基本データも掲載している『京都大学概要2025』と併せてご覧いただけますと、京都大学の魅力をより知っていただけるかと存じます。

日頃本学の活動をご支援いただいている皆様におかれましては、本学の目標とその達成に向けた取組をご理解いただき、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和7年9月  
京都大学総長

湊 長博

京都大学下鴨休影荘(しもがもきゅうえいそう)

日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が晩年を過ごされた旧宅で、長谷工コーポレーションから2021年に寄附を受けていましたが、設計・工事監理を安藤忠雄建築研究所、施工を長谷工コーポレーショングループにて整備して、改めて2024年に本学に寄贈いただきました。

施設名称は湯川博士が好まれた文字を冠し「下鴨休影荘」としました。晩年の湯川博士の私生活に触れられる希少価値と、安藤建築としての高い魅力を兼ね備えた、他施設とは一線を画す格式高い施設となっています。

# 数字で見る京都大学

**創立**  
Establishment

**1897**年

1897(明治30)年6月18日 創立  
(日本で2校目の帝国大学として京都帝国大学創設)  
2022(令和4)年には、創立125周年を迎えました

**学生数**  
Students

**22,300**名

学部生 12,700名(2,900)  
大学院生 9,600名(2,900)  
留学生 3,000名

( )は女子学生

**教職員数**  
Faculty and staff members

**8,400**名

教員 3,500名(700) 研究員 500名(170)  
職員 4,400名(3,000)  
外国人教職員 600名

( )は女性

**組織**  
Organization

学部 10  
Faculty

大学院 18  
Graduate schools

附置研究所 12  
Research institutes

事業推進組織 3  
Operations Development Organization

その他の研究・教育組織 18  
Centers & other organizations

その他の学内組織 5  
Other campus organization

**キャンパス数**  
Campuses

京都に3箇所  
(吉田・宇治・桂) **3**

**国内の研究所  
附置研究施設等**  
Off-campus research and education facilities in Japan

**44**

**栄誉**  
Award winning research

**ノーベル賞**  
**11**名

アーベル賞 1名  
フィールズ賞 2名  
ガウス賞 1名  
ラスカー賞 5名  
チャーン賞 1名

**財務状況**  
Finance condition

総事業費(受入額)  
**1,949**億円

**保有特許**  
Patents

**3,261**件

国内 1,487件  
国外 1,774件

**同窓会**  
Alumni associations

国内 61  
海外 31  
学部・研究科 50

**京大発  
ベンチャー創出数**  
Startup

**422**社

さらに詳しく知りたい方は以下の刊行物をご覧ください。

データから見る京都大学  
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/data>



**京都大学概要**  
各年度時点の本学の組織、沿革、各種データ等をまとめた冊子です。

**アカウンタビリティレポート**  
エビデンスベースの大学運営を支援するために必要なデータをまとめた冊子です。

**TREND FOCUS**  
アカウンタビリティレポートから注目度の高い情報をピックアップし、本学の「いま」を発信する関連小冊子です。

# 世界に輝く研究大学を目指して

— 世界から多様な研究人材が集う国際拠点(ハブ) —



## 研究活動のグローバル展開

ノーベル賞受賞者を擁する拠点



がん免疫総合研究センター



iPS細胞研究所

## WPI 拠点



物質-細胞統合システム拠点



ヒト生物学高等研究拠点

## 国際共同利用・共同研究拠点



化学研究所



基礎物理学研究所



数理解析研究所



優秀な留学生・  
次世代研究者の受入



自由な研究環境のもとで、  
社会を変革する価値とグローバルに活躍する高度人材を生み出し続け、  
世界から多様な研究人材が集う知の拠点へ



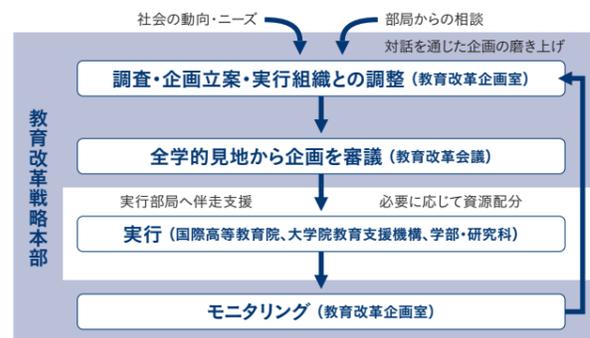
# 学生が国内外から集い、ともに学び、世界に羽ばたく大学に

「学びたい」をあらゆる面からサポート、グローバル人材を育成・輩出

## 教育改革戦略本部を創設

2025年4月、本学の教育全体を俯瞰し、本学が抱える教育上の複合的な課題の解決に向けた優れた施策を全学に展開し、効率的かつ横断的に教育改革を進める司令塔となる新たな全学機能組織として、教育改革戦略本部を設置しました。

教育改革戦略本部には社会の動向・ニーズや学部・研究科の課題を捉えて教育改革の立案・検証を担う教育改革企画室及び全学的な合意形成の場となる教育改革会議を置き、それらを両輪として、学士課程から博士課程までを包含する教育改革を強力に推進していきます。



## 優秀な留学生の積極的な獲得と多様化の促進 <https://www.iup.kyoto-u.ac.jp/>

### Kyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program)

京都大学では、入学段階での日本語能力を一切問わず、入学決定後に徹底した日本語教育を継続的に実施し、専門教育段階から日本語で講義等を行うことで、日本語で学部卒業レベル(あるいは修士課程や博士後期課程修了レベル)の専門知識を獲得した留学生を育成しています。

この取組によって、単に言葉の壁を取り除き、世界中からトップレベルの留学生を学部段階から受け入れるだけでなく、企業や大学における先端的研究・開発が英語以外の言語で行われるという世界的にも稀な我が国の特性に対応し、グローバル展開を図る日本企業および日本経済そのものを牽引できる、きわめて高度な外国人留学生の輩出と日本社会への定着に貢献することを目指しており、さらに拡大していきます。

2024年度には576名の出願者(55の国・地域)から24名(9の国・地域)を予備教育履修生として受け入れ、Kyoto iUP 生の総数(卒業生含む)は、118名(20の国・地域)となりました(2024年度末現在)。



## 少人数実践教育「ILASセミナー」第一線の研究者との対話を通じて京都大学での学びを体得

京都大学では、学生が自律的に課題を発見し解決する学問のプロセスを体験し、その楽しさと意義を実感できるよう、新生入に履修を推奨する科目として「ILASセミナー」を開講しています。この科目は、大学での勉学生活への円滑な導入を図ることを目的としています。

2024年度は、270クラスの多様なテーマで開講され、そのうち69クラスは英語で実施されました。学生は、自ら考え、読み、議論し、書くという能動的な学習を通じて、主体的な学びの重要性を理解し、アカデミック・スキルの基礎を身につけます。ILASセミナーは、新生入が知的好奇心を育み、将来の学びの土台を築く上で不可欠な機会を提供しています。



## インド・オーストラリアから短期インターンシップ生を受け入れ

—新たな地域から優秀な大学院留学生のリクルーティング—

### Kyoto University Short-Term Academic Research (KU-STAR) Program

大学院教育支援機構では、大学院留学生の増加を目指して短期インターンシップ「Kyoto University Short-Term Academic Research (KU-STAR) Program」を実施しています。2024年5月～7月にはインドから、2025年1月～2月にはオーストラリアから、優秀な学生を受け入れました。選ばれた学生は、プログラム期間中、自身が選択した研究室で研究スキルを磨き、日本語授業や日本文化体験等に参加するなどしました。将来の本学大学院への進学、日本及び世界の産業界を牽引するグローバル人材の育成に繋がります。



## 社会の要請に応じた多様な大学院生・社会人向けプログラムを展開

### 1. 大学院教育支援機構 教育コース

多様化する社会ニーズに応える人材を育成するため、2024年度は5コース(「産学協同教育コース」「教育能力向上コース」「グローバル生存学コース」「デザイン学コース」「数学・数理学イノベーション人材育成強化コース」)を開講し、177名が登録しました。大学院共通科目群・大学院横断教育科目群を活用することで、大学院生が専門領域を超えて様々な分野で活躍するための知識や技能を提供しています。



### 2. 京都大学のリカレント教育

#### 『社会人の挑戦を支える知と実践のプラットフォーム』

現代社会では、急速な技術革新や社会構造の変化に伴い、学び直しや新たなスキルの習得に対する社会人の関心が高まっています。京都大学は、こうしたニーズに応えるべく、多岐にわたる教育プログラムを展開し、社会人が専門知識を深め、実践的スキルを向上させる機会を提供しています。



## 世界を舞台に研究を深め、新たな知見を探求する機会を提供

### 大学院教育支援機構(DoGS)海外渡航助成金

大学院教育支援機構では、大学院教育のグローバル展開を強化するため、大学院生によるフィールド調査、国際学会での研究発表、海外での共同研究や研究指導など、さまざまな目的による海外渡航を幅広く支援しています。令和6年度は、257件の応募のうち61件を採択しました。



## 「知の創造」を柔軟かつダイナミックに支援

### 総合研究推進本部を創設

京都大学におけるあらゆる分野の自由で卓越した「知の創生」を支え、必要な研究活動の適正な分析に基づく戦略的な研究推進や体制を強化するため、専門人材を含む教職協働による新たな次元の支援組織として2025年1月に総合研究推進本部が創設されました。下記ミッションを遂行し、研究推進に係る総合マネジメントを実施していきます。

- 研究活動の分析・評価
- 研究戦略の提案、研究企画
- 研究支援
- 研究環境の整備
- 研究インテグリティの確保
- 多様な専門人材の確保・育成



### 柏原正樹数理解析研究所特任教授、高等研究院特定教授がアーベル賞受賞

—世界の追従を許さない唯一無二の獨創性—

京都大学はこれまで、アジア最多のノーベル賞受賞者を輩出するなど、世界に誇る獨創的な研究を積み重ねてきました。2025年5月、その研究力を象徴する新たな快挙として、数学界のノーベル賞と称される「アーベル賞」を、本学の柏原正樹特任教授が受賞しました。柏原特任教授の深い洞察と獨創的な発想が、世界の数学界から高く評価されました。



### がん免疫研究の新たな拠点、始動

2024年11月12日、がん免疫総合研究センター（CCI）の研究拠点である「がん免疫総合研究センターブリストル・マイヤーズスクイブ棟」の竣工を記念する開所式が執り行われました。がん免疫における国際的な研究拠点を標榜し、象徴的にデザインされた本棟には、基礎・臨床をまたがるがん免疫研究者が集結し、がん克服に向けた革新的な知の創出に取り組んでいます。



### 白眉センターが創立15周年を迎えました

京大独自の若手研究者の育成「白眉プロジェクト」  
—他にない京大の自由を求めて世界中から若手研究者が集い切磋琢磨—

京都大学では、白眉センターの運営により、自由かつ獨創的な発想で課題に挑戦する若手研究者を、学術分野を問わず世界中から募り5年間支援する、本学独自のプログラム「白眉プロジェクト」を実施しています。同センターの前身組織が2009年9月に設置されて以降、2024年度に創立15周年の節目を迎えました。この間、28の国・地域から述べ257人の若手研究者を受け入れ、世界の「Hakubi」として若手研究者の登竜門となっています。



### 若手研究者とScience編集長が語る「研究のこれから」

#### KyotoU Future Commons Dialogue Series を開催

2025年3月、京都大学の若手研究者（Early Career Researchers）と米国科学振興協会（AAAS）/Science編集長が一堂に会し、研究の発信や環境、国際的なキャリア形成などについて語り合う座談会を開催しました。本企画は、研究と社会をつなぐ対話の場「KyotoU Future Commons Dialogue Series」の一環として実施されたものです。未来の科学を担うECRたちが、自らのビジョンを共有し、グローバルな視点で議論を交わす機会となりました。



#### ビジュアルブック「KyotoU Future Commons」

京都大学では、125名の若手研究者の研究と想いをまとめたビジュアルブック『KyotoU Future Commons Visual Book』も公開しています。未来社会を形づくる研究の多様な姿を、ぜひご覧ください。

### 京都大学アカデミックデイ2024を開催しました

#### 対話を根幹とした京大:学問と社会をつなぐオープンイベント

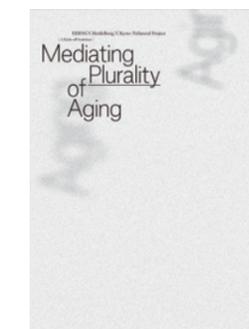
京都大学では本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指して「京都大学アカデミックデイ」を開催しています。今年度は2011年度の開始以来初めて2回開催し、学部・大学院生含む194名（50組）の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者は述べ1217名に上りました。



### 「エイジング」に関する日独仏3大学国際共同プロジェクト

#### EHESS x Heidelberg x Kyoto トライラテラルプロジェクトのキックオフプログラムを開催

「エイジング」は人類にとって普遍的な現象ですが、その理解は学術分野ごとに大きく異なります。高齢化が顕著な日本に対する国際社会の関心の高まりも受け、京都大学はフランス社会科学高等研究院（EHESS）・ハイデルベルク大学（ドイツ）と、学際的かつ文化横断的な議論を通じてエイジングの統合的理解を目指すプロジェクト「Mediating Plurality of Aging」（『エイジング』の複数性をつなぐ）を開始、2024年10月にキックオフセミナーと関連プログラムを本学で開催しました。本プロジェクトの重要な柱は、その横断的議論の継続と学界の将来を担う若手研究者の育成です。参加者からは、若手セッションやサイトビジット等を通じて大きな刺激を得たという声が寄せられました。2025年度はハイデルベルク大学で開催です。



# 社会との共創により新たな価値観・ビジョンを提示

## 成長戦略本部を創設

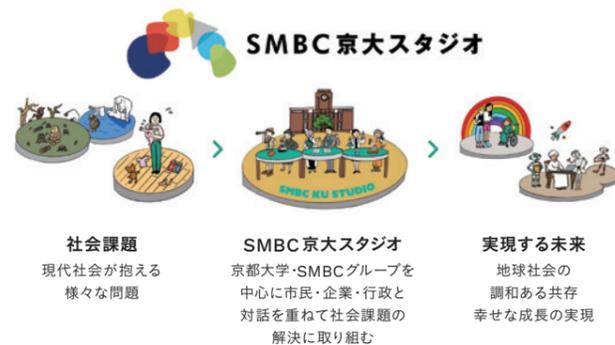


世界初の社会価値をここから誕生させるために社会と大学とのインターフェースとして新たな価値創出をめざして、2024年4月に研究成果活用とファンドレイジングの機能を統合して、成長戦略本部を創設しました。

## 社会的価値を創造する工房「SMBC 京大スタジオ」を開設

京都大学、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社日本総合研究所は、2024年7月1日に京都大学内に「SMBC 京大スタジオ」を開設しました。独創的な研究を行う総合大学と産業界のハブとなるグローバル金融グループで連携し、社会課題起点のユニークな切り口で研究プロジェクトを立ち上げ、課題解決に向けた活動を進めています。

設立当初より「発達特性がある人材の職場での活躍」「貧困・格差・虐待の連鎖を断ち切る教育アプローチ」「高齢期の身じまいにおける意思決定のあり方」について研究と社会への発信を両輪で進めてきました。また、2025年度は学内公募を通じた新規テーマの立ち上げにも取り組んでいきます。



## シンガポール国立大学と連携協定を締結

京都大学は、スタートアップ育成を目的に海外の大学と組む初めての取り組みとして、2025年3月26日、産学連携領域においてシンガポール国立大学(NUS)と連携協定を締結しました。

連携協定の調印式のため、NUSからTan Eng Chye 学長やNUSで産学連携活動を所管するNUS EnterpriseのSien Tan 本部長などが来学され、湊長博 総長、室田浩司 副理事(社会連携・イノベーション推進担当)・成長戦略本部長と懇談を行いました。両者は「グローバルで活躍できるスタートアップを誕生させる」との目標で一致し、両大学は今後、大学発スタートアップ創出の強化やスタートアップへのインターン派遣、アントレプレナーシップ教育コースの相互活用などの施策を協力して行っていく予定です。



## 京都府、京都市との包括連携協定を締結

2025年3月26日、本学は、京都府および京都市と、世界から京都に多様な人材を呼び込み、次世代に向けた新たな価値や技術を創造し、京都の未来を切り拓くとともに、我が国における行政と大学との連携による国際的な学術都市形成を牽引することを目的に、三者での包括的な連携協定を締結しました。

今後、三者は協定で合意した連携・協力事項をより効果的に機能させるため、具体的な取組や実施方法などについて、定期的に協議を行い、さらなる連携を推進していきます。

## 京都府、京都市及び京都大学との包括連携協定書締結式



## 「一般社団法人 京都大学フォトニック結晶レーザー研究所」を設立

2024年12月2日、京都大学はフォトニック結晶レーザー (PCSEL : Photonic-Crystal Surface-Emitting Laser) 研究の実用化への橋渡しを目的とした「一般社団法人 京都大学フォトニック結晶レーザー研究所」を、桂キャンパスAクラスターA1棟内に設置しました。本学が世界をリードするフォトニック結晶レーザーは、フォトニック結晶(屈折率が異なる物質を光の波長と同程度の間隔で並べたナノ周期構造の人工結晶)を活用した半導体レーザーで、1999年に野田進 工学研究科教授(当時、准教授)が発明しました。高出力・高ビーム品質動作が可能で、かつさまざまな機能性を持っており、スマート製造やスマートモビリティをはじめとする超スマート社会への応用が期待されています。今回、設立した法人が実用化のための橋渡し機能の中心を担うことで、より実践的な研究開発や普及活動等が可能になり、社会実装の加速が可能となります。



新たな価値観・  
ビジョンの提示

社会課題対応型  
プラットフォーム

アカデミアの  
視座と思考

## 起業家育成プログラム <https://kuep.jp>

京都大学アントレプレナープラットフォーム(KUEP: Kyoto University Entrepreneurs Platform)は、京都大学を起点とした、起業家育成のために必要なさまざまなリソースを提供するための基盤となるものです。KUEPでは、大きく分けて、物理的なプラットフォームと人的なプラットフォームを提供しています。



# 多様性を力に変え未来を拓く

## DEIB 推進宣言



2025年4月7日に総長名で「京都大学DEIB推進宣言」を公表しました。この宣言は、本学のDiversity、Equity、Inclusion、Belongingの考え方を示したものです。本学は、自由の学風のもと、型にはまらない思考を尊重し、独創的な研究を生み出すことで、学問の発展に寄与してきました。宣言では、多様性の尊重は、この伝統の延長線上にあるものとして、大学にとっての成長と発展の原動力と位置付けています。特に、Belongingについては、京都大学を今よりさらに、自身のアイデンティティの一部として愛着と誇りをもてる共創的なコミュニティに深化させていくものと位置づけ、この理念をもとに、「多様性を力に変え、未来を拓く」ことを目指します。



DEIB KU ウェブサイト  
<https://www.deib.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



## 女性研究者・学生の顕彰

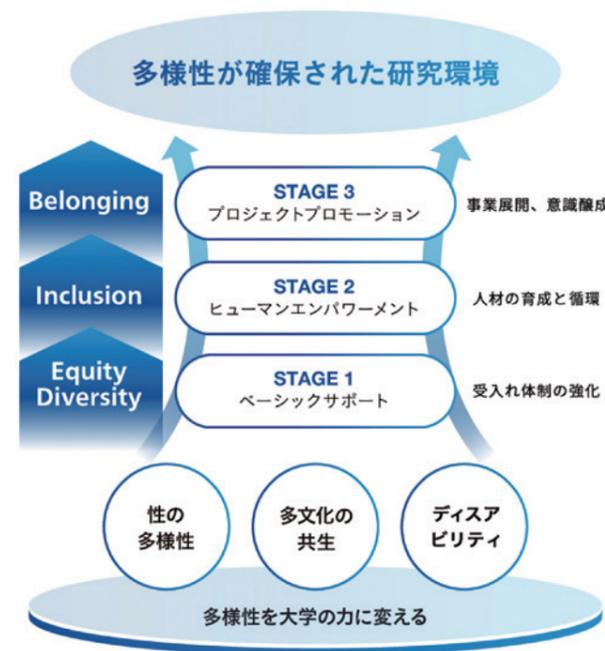
「京都大学たちばな賞」や「京都大学久能賞」の授賞も、若い女性研究者の励みとなり、受賞者が後に学外の重要な賞を獲得するなど、確実なステップアップを実感しています。  
 また、2021年には、各方面でご活躍の京都大学出身の女性を対象に「京都大学このえ会」を設立してネットワーク構築を図り、女子学生・研究者への支援と女性活躍機会拡大や課題解決に取り組んでいます。

## 多様性に配慮した環境改善

誰もがより快適に過ごせるキャンパスを目指して、2025年度は、生理用ナプキンの無償提供や、施設部と協力して多様性に配慮したトイレの整備に取り組んでいます。



## DEIBと3つのステージ



DEIB 推進宣言に基づき、性の多様性、多文化共生、ディスアビリティの重点領域において多様な人材を研究環境とライフサポートの両面で支える「ベーシックサポート」、人材の育成と循環を促進する「ヒューマンエンパワーメント」、本学の取組を基にした他機関への事業展開・社会への普及を目指す「プロジェクトプロモーション」の3つのステージに応じた取り組みを進めています。

## 女子学生チャレンジプロジェクト

本事業は、女子学生がチームリーダーとなって、自らの好奇心や探求心を核とした新しい課題に挑み、メンバーと多様な視点から議論し協働するプロセスを通じて、研究の面白さを感じられるような活動を後押しします。  
 これまで、工学、医学をはじめ異分野の学生がチーム一丸となって、領域横断的でチャレンジングなテーマに取り組んできました。2025度は、31件の多岐にわたるテーマの応募があり、最終的に4件が採択されました。今年で3年目を迎えますが、プロジェクト終了後に企業との共同研究に発展した例や、広報誌などに取り上げた活動レポートが高校生へのアピールに繋がっているなど、事業の効果が年々大きくなっています。



2025年度「女子学生チャレンジプロジェクト」実施内容  
<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/story/w-challenge/>



## 障害のある学生への支援 <https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/>

京都大学において、学ぶことや研究することに障害(社会的障壁)が生じた時、どのような解決策や選択肢があるでしょうか。学生総合支援機構 障害学生支援部門(DRC)が、障害のある学生やその周囲の教職員、受験希望者の相談に応じています。専任スタッフが相談を受け、授業などでの合理的配慮の調整やノートテイク・移動介助等学生サポーターの派遣、AT(支援技術)の提供など、各種修学支援を行なっています。これらの活動が評価され、2023年9月5日、「障害者雇用優良事業所等京都府知事表彰」を受賞しました。



## 障害学生支援ガイドブック

京都大学における障害学生支援のシステムやDRCの紹介、各種障害に関する基礎的な知識・支援方法などを整理し、冊子として教職員に配布しています。実際に障害のある学生に対応する必要が生じた場合には、その都度、個別に相談していくこととなりますが、手がかりとして活用しています。

## フリーアクセスマップ

DRCでは従来のものとは少し異なる視点で情報を表示する方法を考え、マップを作成し配布しています。本マップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成したもので、従来のように道筋や設備の使用を限定し指示するようではなく、目的地までのバリア(障壁)を適切に表示することで、自らのスキルに合わせて道筋などを選択できるような形式にし、ネーミングも「フリーアクセスマップ」としています。



## 障害のある学生の支援リソースリスト(京都市版)

障害のある学生は、大学等による修学支援に留まらず、生活支援など地域リソースを利用することが少なくありません。DRCでは生活に関する相談窓口、就労に関する相談窓口などの情報を集約し、「障害のある学生の支援リソースリスト/マップ」を作成しました。利用可能なリソースが様々ななかで、ご自身の状況にあった機関を見つける参考にしていただけます。

上記のコンテンツは、DRCのウェブサイトにて公開しています。 <https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/contents/>



## 世界トップレベルの大学・研究機関との戦略的な学術連携

### より実質的で恒常的な国際共同研究の強化へ

本学は、海外における研究や教育及び学生や教職員の国際交流を支援する国際活動拠点として、全学海外拠点(ドイツ、タイ、米国)を含め世界各国に数多くの海外拠点やフィールドステーション等を設置しています。

また、世界各国の主要大学・機関と学術交流協定(MOU)を締結するとともに(176大学2大学群15機関)、世界に卓越した大学のうち、活発な研究交流を分野横断的に展開させ、新たな学術分野での共同研究や人材の流動性を促進するため、学長(執行部)レベルでの合意に基づいて連携を強化していく「戦略的パートナーシップ校」に5つの大学(ウィーン大学、ボルドー大学、チューリヒ大学、ハンブルク大学、国立台湾大学)を認定しています。

さらに、海外の大学や研究機関等と共同で設置する現地運営型研究室「On-site Laboratory」を運営し、海外機関等との活発な研究交流や世界をリードする最先端研究を推進するとともに、優秀な外国人留学生の獲得、産業界との連携の強化等、本学が世界の有力大学に伍して第一線で活躍するための基盤や体制を強化しています。



大学間学術  
交流協定

193

戦略的  
パートナーシップ校

5

海外拠点等  
(部局設置)

61

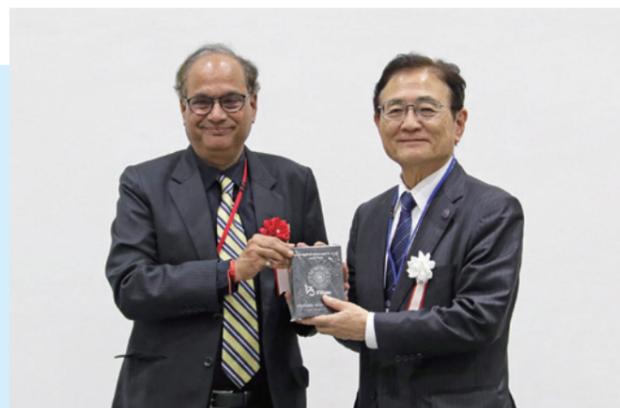
On-site  
Laboratory

14

(2025年4月1日現在)



ASEAN拠点10周年記念式典を開催(2024年12月17日)



インドにOn-site Laboratoryを設置(2024年10月)

## 新医療の創造で世界を牽引する

研究と臨床、地域と医療、いまとこれからをつなぎながら

### 2024年に創立125周年を迎えました

明治32(1899)年12月に京都帝国大学医科大学附属病院として開設され、令和6(2024)年12月に125周年を迎えました。「人間の健康と福祉に貢献すること」を使命とし、安心・安全な医療の提供と先端医学研究に貢献すると同時に、開設以来変わることのない当院の基本理念のもと、患者中心の開かれた病院として安全で質の高い医療を提供すると同時に新たな医療の開発を行い、また優れた医療人の育成に努めてきました。

開設125周年を記念して、市民公開講座の開催、記念誌の発行、記念式典の挙行など、様々な事業を実施しました。

これまで積み重ねてきた歴史をひもときつつ、革新的な医療開発に取り組み、地域医療の強化に寄与する京大病院のあるべき姿を目指し、進化し続ける病院として、今後も人々が健やかに過ごすことのできる安心社会の実現に貢献を続けていきます。

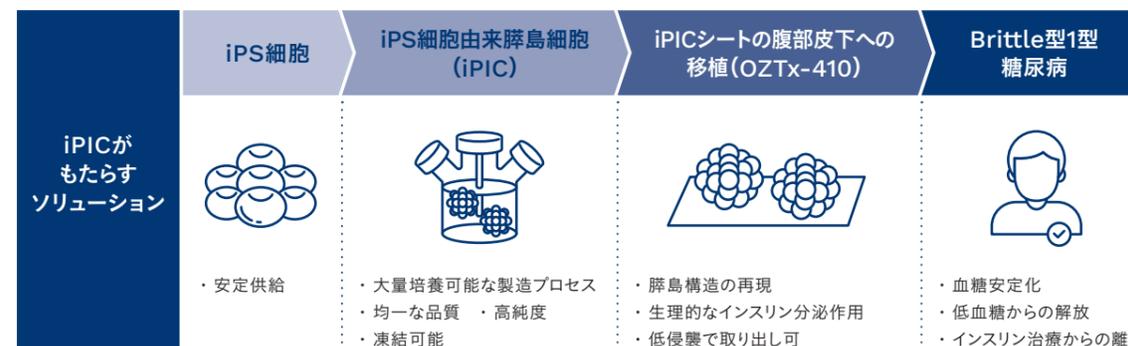


### 「iPS由来膵島細胞シート移植に関する医師主導治験」の開始

医学部附属病院糖尿病・内分泌・栄養内科の矢部大介教授らは、肝胆膵・移植外科と連携し、膵島移植が適応となる1型糖尿病患者さんを対象としたiPS由来膵島細胞シートの安全性を確認するための医師主導治験を開始することとなりました。

この治験で使用されるiPS細胞由来膵島細胞(iPICs)は、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)と武田薬品工業株式会社の共同研究により、CiRAのプロジェクトの一環として開発されたものです。

将来的に、糖尿病領域における移植医療のドナー不足解消に貢献し、患者さんの新たな治療選択肢となることを目指します。



### 「ドナルド・マクドナルド・ハウス 京都」誘致

病気と向き合う子どもとその家族が安心して過ごせる「ドナルド・マクドナルド・ハウス 京都(京都ハウス)」の誘致が決定しました。病気と向き合う子どもたちは大学病院等の設備・スタッフの揃った専門病院で治療を受けることが多く、自宅から遠く離れた病院に入院するケースも多くあります。

そのような子どもたちとその家族のために、“HOME AWAY FROM HOME”のコンセプトのもと、どんな時でも家族と一緒にいられるように「第二の我が家」として、小児がん拠点病院である京都府立医科大学附属病院と京都大学医学部附属病院の共同利用施設となる京都ハウスは、関西圏では「おおさか健都ハウス」「神戸ハウス」につづき3番目に開設されるハウスとなります。

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン、京都府立医科大学附属病院と連携しながら、多くの家族に寄り添い、支えています。



京都ハウスイメージパース図

## 躍動するスピリッツ、深め合う絆

本学の公認団体として、体育会所属の運動部・団体が54団体、体育会に所属していない体育系サークルが31団体、文化系サークルが98団体あります。そのほか、多くの課外活動学生団体が熱心な活動を行っています。

### サッカー部

京都大学サッカー部は、1925年に発足、2025年に総部100周年を迎えました。私立大学とは異なり、推薦で一流選手が入部することはなく、個の力で劣るかもしれませんが、戦術的に戦うことで、チーム力で対抗しています。勝利のために緻密な戦術を練る「考えるサッカー」を京大サッカー部が掲げるチームコンセプトとしています。その他、京大カップや季節ごとのイベントを開催し、地域の小学生とも積極的に交流を深めています。



### 弓道部

弓道部は1897年の大学創立直後に創部された京都大学最古のクラブの1つです。勝利を大きな目標として掲げ、仲間とともに互いを高めあいながら日々弓を弾いています。近年は常時50名以上の部員が在籍しています。2025年度は、女子も2部に復帰。鴨川畔の第7代弓道場を拠点として日々修練に励んでいます。



### 居合道部

居合道は刀を用いて演武をする形武道で、試合では「技の正確さ」だけではなく、「修業の深さ」、「礼儀」、「心構え」などを審判員によって判定されます。また男女の区別なく戦えることも居合道の特徴のひとつです。2024年度に開催された第39回全日本学生居合道大会では個人戦の部において鈴木 衿佳さんが本学の女性選手で初めて優勝するなど、日ごろの稽古の成果をいかに発揮しています。

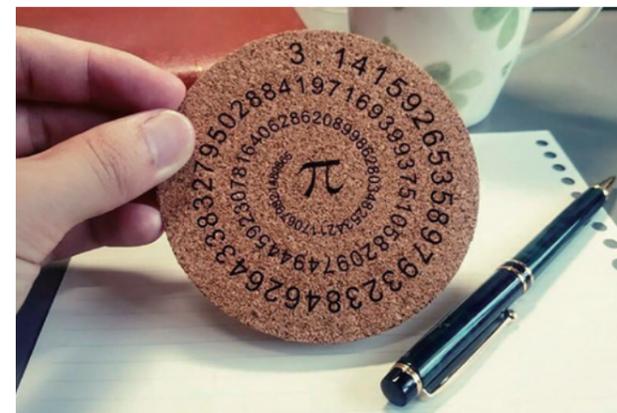
### グリークラブ

京都大学グリークラブは、1966年に男子学生約30名によって設立され、「男声合唱」という手段を通じ、学生らしい自由な発想のもとで、団員で1つの音楽を作り上げ、みなさんに届けることを理想に日々活動しています。毎年京都府民ホールで定期演奏会を開いているほか、ハーバード大学や東京大学ともジョイントコンサートを開催してきました。2024年度の第19回ホームカミングデーでも8曲を披露しました。



### 京大工房

京大工房は、「学生の視点からアイデアをカタチに」を理念に京大らしいユニークな商品制作や販売を通して、ものづくりやビジネスについて実践的に学んでいく団体です。円周率が螺旋状に刻まれたコルクのコースター、二進数で表記されたトランプ、吉田キャンパス本部構内の地図がプリントされたトートバッグなど個性あふれる商品を日々制作しています。百万遍さんの手づくり市や京大の学祭で出店している他、京大大学総合博物館や時計台ショップで委託販売もしています。



### 京大カレー部

京大カレー部は、スパイスに関わることなら「何でも」活動範囲の総合料理サークルです。オリジナルのレシピによるカレーが話題を呼び、テレビや有名雑誌の取材が特に多い団体です。飲食チェーンとのコラボ商品の開発やレシピ本の出版なども精力的に行っています。毎年11月祭(NF)では、京大カレー部の日替わりのカレーを求め、連日長い列ができます。昨年度は4日間で5,000食以上を販売しました。

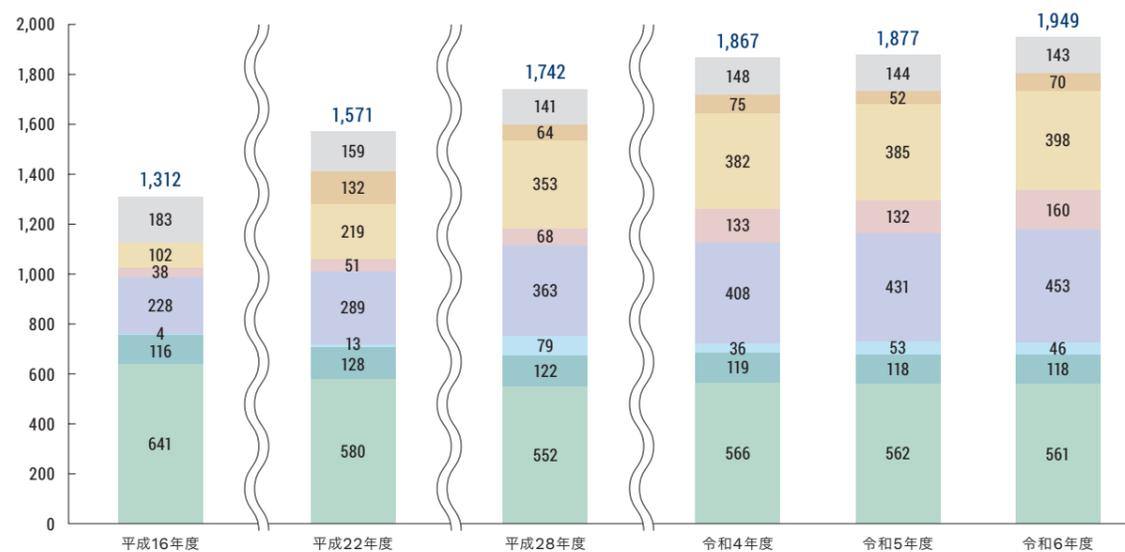


## 総事業費(受入額)の推移

寄附金収入及び受託・共同研究等収入の伸びが大きく、法人化当初に比べて、全体に占める割合が増加しています。

	令和5年度	令和6年度	増減
運営費交付金	562	561	△1
授業料、入学金及び検定料収入	118	118	0
雑収入・財産処分収入	53	46	△7
附属病院収入	431	453	22
寄附金収入	132	160	28
受託・共同研究等収入	385	398	13
補助金等収入	52	70	18
科学研究費助成事業等	144	143	△1
計	1,877	1,949	72

受入額(単位:億円)

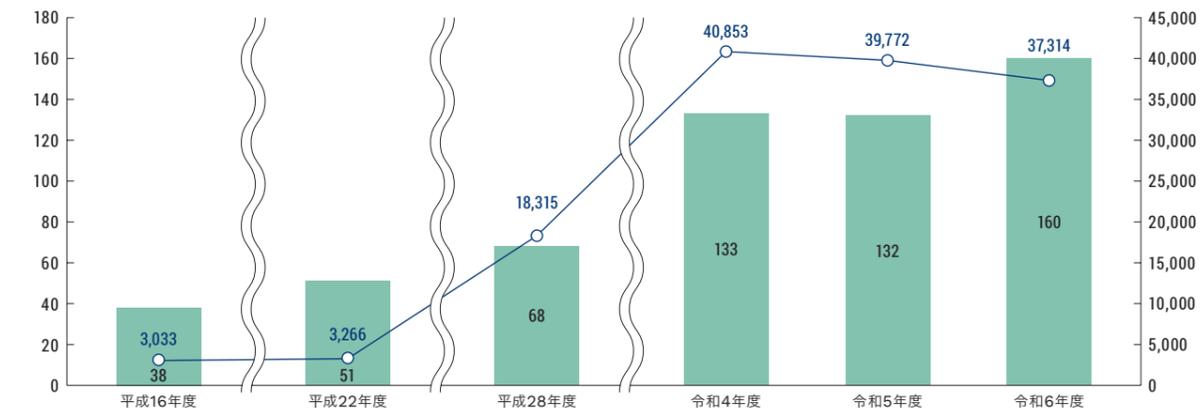


■ 運営費交付金    ■ 雑収入・財産処分収入    ■ 寄附金収入    ■ 補助金等収入  
■ 授業料、入学金及び検定料収入    ■ 附属病院収入    ■ 受託・共同研究等収入    ■ 科学研究費助成事業等

※上記には、施設等の大規模な整備事業にかかる施設整備費補助金及び長期借入金は含んでいません。

## 寄附金

(単位:億円) ■ 受入額 ○ 件数 (単位:件)

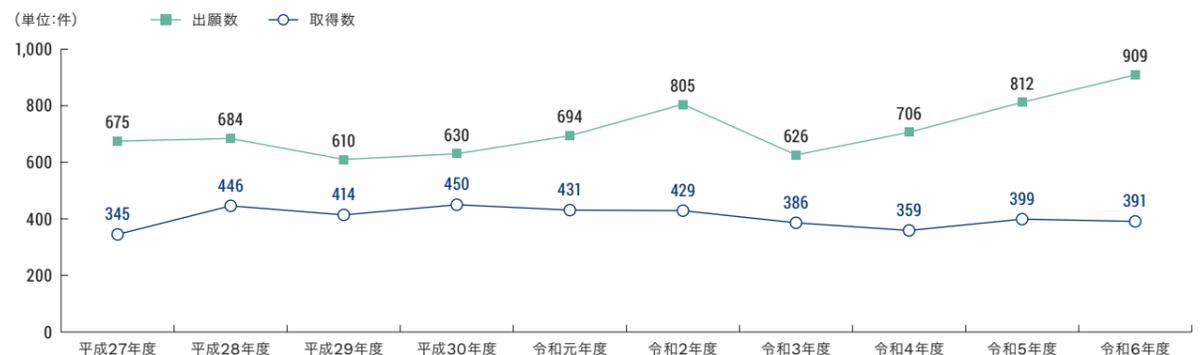


## 知的財産の活用

### 知的財産の活用に向けた取組

京都大学では、研究成果の実用化を促進するため、発明届出時の段階から、成長戦略本部と株式会社TLO京都をはじめ、学内外の関係組織と連携し、知的財産支援などの活動を推進しています。技術分野や発明ごとに研究の背景や周辺状況、発明の特許性や特許ポートフォリオ、市場調査などの結果を踏まえつつ、知財管理や技術移転、国家プロジェクトや複数企業からなる研究コンソーシアムにおける知財マネジメントならびに京大発ベンチャーに対する知財支援などの活動を推進しています。

### 特許出願数および取得数の推移



### 特許権等収入額および件数の推移

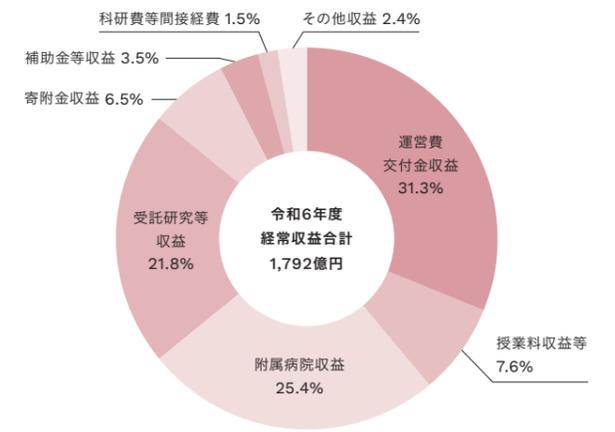
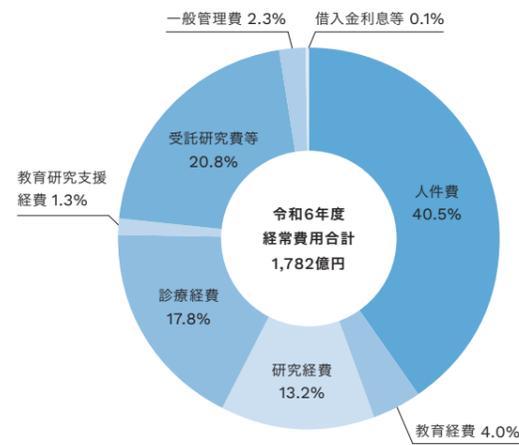
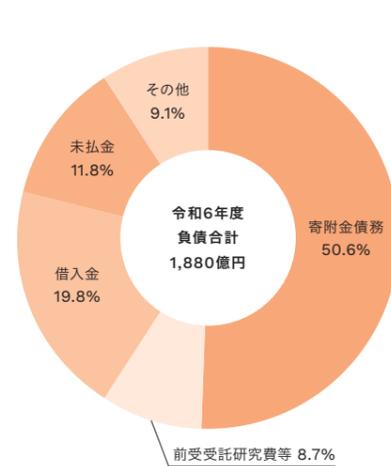
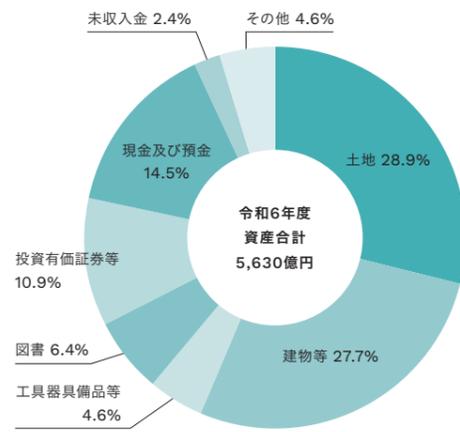


貸借対照表の概要

(単位:億円)				(単位:億円)			
資産の部	令和5年度	令和6年度	増減	負債の部	令和5年度	令和6年度	増減
土地	1,628	1,627	△1	寄附金債務	899	951	52
建物等	1,626	1,561	△65	前受受託研究費等	157	164	7
工具器具備品等	236	261	25	借入金	396	373	△23
図書	356	358	2	未払金	250	221	△29
建設仮勘定	3	7	4	その他	148	171	23
投資有価証券	322	458	136	<b>負債合計</b>	<b>1,850</b>	<b>1,880</b>	<b>30</b>
関係会社有価証券	142	159	17	<b>純資産の部</b>	<b>令和5年度</b>	<b>令和6年度</b>	<b>増減</b>
長期性預金	20	10	△10	資本金	2,682	2,682	0
現金及び預金	908	816	△92	資本剰余金	44	34	△10
金銭の信託	191	189	△2	利益剰余金	994	1,025	31
未収入金	125	132	7	当期末処分利益	41	9	△32
その他	54	52	△2	<b>純資産合計</b>	<b>3,761</b>	<b>3,750</b>	<b>△11</b>
<b>資産合計</b>	<b>5,611</b>	<b>5,630</b>	<b>19</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>5,611</b>	<b>5,630</b>	<b>19</b>

損益計算書の概要

(単位:億円)				(単位:億円)			
	令和5年度	令和6年度	増減		令和5年度	令和6年度	増減
<b>経常費用</b>				<b>経常収益</b>			
人件費	708	722	14	運営費交付金収益	556	560	4
教育経費	72	72	0	授業料収益等	135	136	1
研究経費	235	236	1	附属病院収益	431	456	25
診療経費	313	317	4	受託研究等収益	358	391	33
教育研究支援経費	19	23	4	寄附金収益	149	117	△32
受託研究費等	339	370	31	補助金等収益	60	62	2
一般管理費	40	40	0	科研費等間接経費	32	27	△5
借入金利息等	2	2	0	その他収益	47	43	△4
<b>経常費用合計</b>	<b>1,728</b>	<b>1,782</b>	<b>54</b>	<b>経常収益合計</b>	<b>1,768</b>	<b>1,792</b>	<b>24</b>
<b>臨時損失</b>	<b>16</b>	<b>4</b>	<b>△12</b>	<b>臨時利益</b>	<b>14</b>	<b>1</b>	<b>△13</b>
				<b>目的積立金等取崩</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>△1</b>
<b>計</b>	<b>1,744</b>	<b>1,786</b>	<b>42</b>	<b>計</b>	<b>1,785</b>	<b>1,795</b>	<b>10</b>
				<b>当期総利益</b>	<b>41</b>	<b>9</b>	<b>△32</b>



※「投資有価証券」、「関係会社有価証券」は投資有価証券等を含んでおります。  
 ※「建設仮勘定」、「長期性預金」及び「金銭の信託」はその他を含んでおります。

キャッシュ・フロー計算書の概要

	(単位:億円)		
	令和5年度	令和6年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	192	193	1
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△315	△153	162
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△26	△32	△6
IV 資金増加額(又は減少額)	△149	8	157
V 資金期首残高	597	448	△149
VI 資金期末残高	448	456	8

利益の処分に関する書類

	(単位:億円)		
	令和5年度	令和6年度	増減
I 当期末処分利益(当期総利益)	41	9	△32
II 利益処分額			
(1) 積立金	34	7	△27
(2) 教育研究等積立金	7	2	△5

## 多彩なプロジェクトによって「京大力」を未来へ

支援者の皆様の期待に応えつつ、基金の有効活用と拡充を図る

### 京都大学基金へのご支援

京都大学は研究大学としての使命を果たすべく、教育・研究の振興や学生支援に力を入れてきました。そのための支援の基盤として、2007年3月に「京都大学基金」を設立しました。現在、京都大学基金は、本学全体の教育研究・社会貢献のために活用する基金と、世界中から期待されているiPS細胞研究のさらなる発展のための「iPS細胞研究基金」や、若手研究者の後押しをする「本庶佑有志基金」、経済的困難を抱える学生を支援する「修学支援基金」など、特定のプロジェクトを支援するための基金(特定基金)から構成されています。同基金は設置以来、数多くの方よりご支援をいただいております。2024年度末現在、基金(特定基金含む)の受入残高は約603億円に達しています。この活用実績については「京都大学基金」のウェブサイトにおいて広く公開しています。今後も積極的な寄付募集活動に努めながら、産業界と学界が相互に連携・協力し、多元的な課題の解決に挑戦する人材育成基金や、地球社会の調和ある共存に貢献するためのSDGs課題解決基金など、本学の卓越した知を活用した多様なプロジェクトを展開していきます。

京都大学基金のウェブサイト <https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

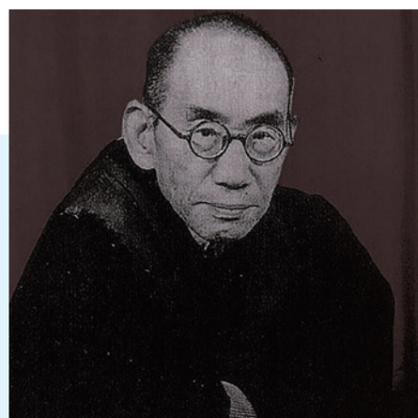


### 京都学派の研究を支援する「西田哲学一千本基金」を創設

卒業生で「連続起業家」の千本倅生氏から本学に3億円のご寄付があり、哲学者・西田幾多郎と西田の思想を基盤として生まれた「京都学派」の研究を支援するため、2024年6月26日に「西田哲学一千本基金」を創設しました。また同日、京都大学下鴨休影荘(湯川秀樹博士旧宅)にて記者発表を行いました。京都大学発の学問分野の一つである京都学派や西田哲学をはじめとした日本の独創的な哲学を研究する文学研究科日本哲学史専修は、日本哲学の研究拠点として世界からも注目されています。しかし現在、この伝統ある学術分野は継承が十分とは言えない状況となっているため、本学では本寄付を原資に独自の基金を創設し、今後10年間、次世代の研究者の育成や、史料の整備等に活用します。



左から、湊総長、千本氏、上原麻有子 文学研究科教授



西田幾多郎  
画像出典:上田閑照『上田閑照集第一巻』岩波書店

### 同窓会との積極的な連携

本学では、学部・研究科同窓会や地域同窓会、横断型同窓会など、各種同窓会組織との連携強化に取り組んでいます。京都大学この会は、社会で活躍している本学出身の女性が相互の関係を深めながら、ネットワークを新たに構築するとともに、京都大学の女子学生や女性研究者等へ緩やかな支援を行うことを目的として設立され、本学女子学生向けのイベントなどを企画しています。その他、本学では、同窓会の開催支援や毎年11月のホームカミング日の開催などの活動を行っています。



京都大学奈良県同窓会 令和6年度定時総会(2024年6月30日)



東南アジアネットワークフォーラム(タイ) (2024年12月17日)

### 第19回京都大学ホームカミングデー

第19回京都大学ホームカミングデーを2024年11月2日(土)に開催しました。あいにくの雨天となりましたが、同窓生、教職員、学生、一般の方々など延べ4,304名が参加しました。また、当日の様子は動画で配信し、過去のアーカイブもオンラインで公開しました。当日は、湊長博総長の挨拶に続き、本学卒業生でVOCALOIDの開発者として知られる剣持秀紀氏による講演を行い、その後の音楽会では、交響楽団、グリークラブ、京大合唱団・同窓会合唱団が出演しました。そのほか、資産活用セミナーや研究者と直接対話できる「京都大学アカデミックデイ」、同窓生による書道・写真などの展示、総合博物館などの施設見学、スタンプラリーなど、多彩な企画を実施しました。特に「くすのき逸品マルシェ」では、農学研究科附属の農場・牧場や本学にゆかりのある企業など15店舗が出店し、来場者でにぎわいました。



剣持秀紀氏の講演



グリークラブの合唱

京都大学同窓生向けオンラインサービス「KUON」 京都大学KUONのウェブサイト <https://www.alumni.kyoto-u.ac.jp/static/>

卒業後も京都大学を身近に感じてほしい、という思いから誕生したオンラインネットワーク。登録者限定の優待特典、同窓生インタビューの配信、生涯メールアドレスなどのサービスを提供するほか、京大の「知」を還元するワークショップなども行っています。

